



# 2026年5月開催 個人投資家向け会社説明会

株式会社C R I ・ ミドルウェア

< 東証スタンダード市場 / 証券コード : **3698** >

2026年 5月 20日

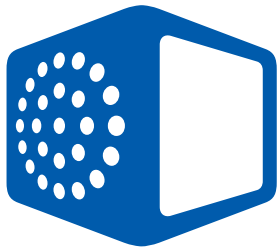
1. 会社紹介
2. 業績動向
3. 中期経営計画
4. 株主還元方針



# 1. 会社紹介

# ①何をしている会社？

**私たちは、  
音と映像に関する技術者集団、  
(株)CRI・ミドルウェア です**



**CRIWARE®**

音と映像に関する研究開発の技術成果を「ミドルウェア」という製品にして世の中に提供しています。

## ②ミドルウェアとは？

ミドルウェアは、異なるソフトウェアやシステム同士がスムーズにやり取りするための“仲介役”のソフトウェアです。

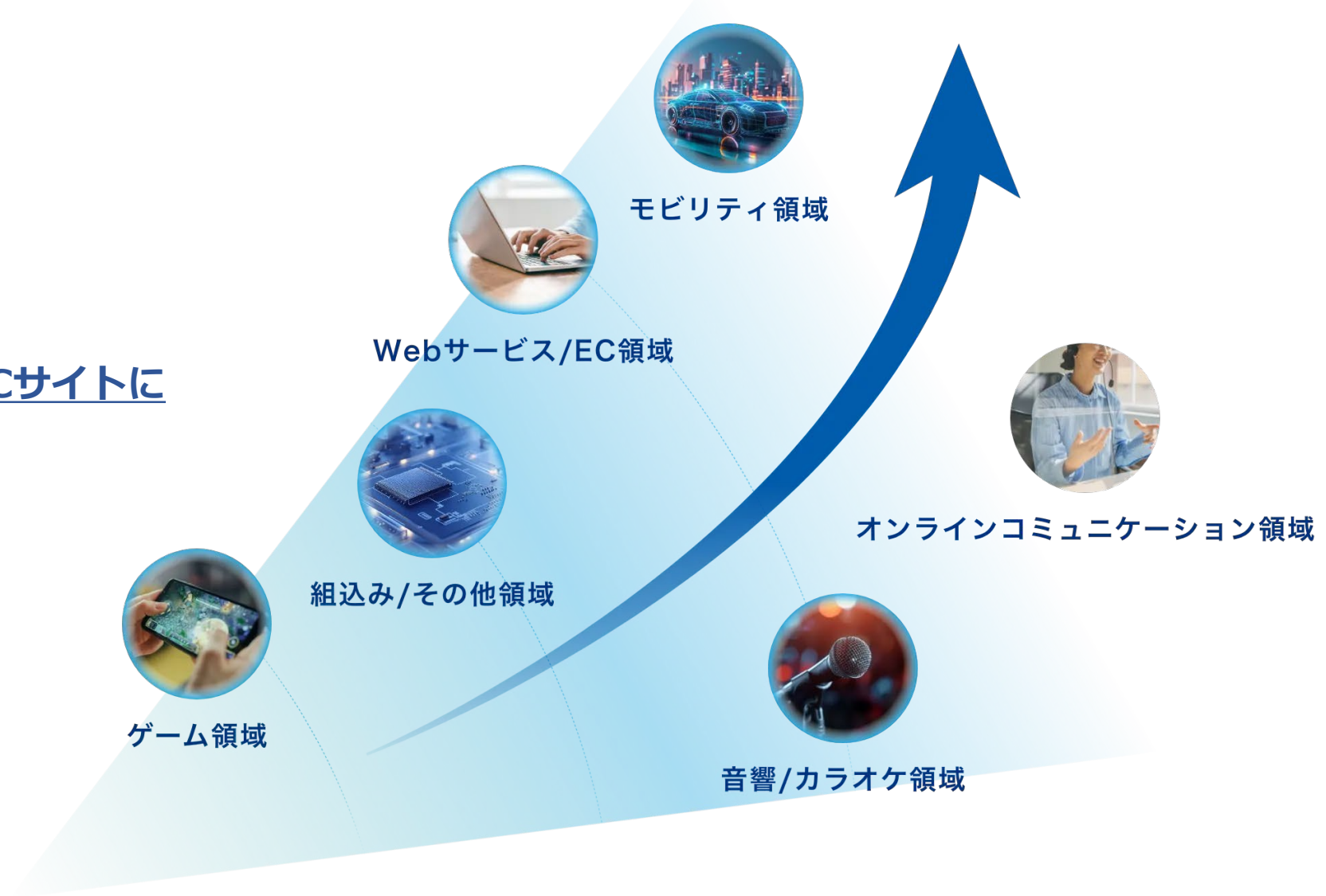
ソフトウェアとハードウェアの間に入り込み、両者の連携や通信を助けます。

ハードウェアの違いを吸収し、どのハードウェア上でも、同じソフトウェアが動くようにするための役割を担っています。



# ③こんなところにもCRI

- カラオケに
- 組み込み機器に
- 玩具に
- 映画の立体音響に
- アパレルなどのECサイトに



# ③こんなところにもCRI

## <カラオケ事例の紹介>

CRIは2019年に発売された前モデルLIVE DAM Aiから、第一興商のカラオケ機器に技術を提供。

2025年4月に発売した最新機種 **LIVE DAM WAO!** においても、音声を加工する多彩なエフェクトや、華やかな画面の演出、独自のAI技術を使った採点システムなど、さまざまな側面で新モデルの開発をサポートしています。



## NEWS RELEASE

2025年4月25日  
株式会社CRI・ミドルウェア  
(コード番号: 3698、東証グロース)

### CRI、第一興商の新業務用通信カラオケ「LIVE DAM WAO!」に音と映像、AIの技術を提供、みんなで歌う楽しさとオドロキを創造

株式会社CRI・ミドルウェア（本社：東京都渋谷区、代表取締役社長：押見 正雄、以下「CRI」）は、株式会社第一興商（本社：東京都品川区、代表取締役社長：保志 忠郊、以下「第一興商」）が4月18日に発売した新しい業務用通信カラオケ「LIVE DAM WAO!」の開発に参画しました。CRIが開発・提供した技術による音声演出と、多彩な映像表現、新しい採点コンテンツが、みんなで集まって歌う楽しさの創造に貢献し、ユーザー層の拡大に寄与します。

# LIVEDAM WAO!



×



■ CRIの音声、映像、AIの技術が、みんなで歌って楽しいカラオケを実現

# ④ 生い立ち

## CSK総合研究所時代

### 1983年 CSK総合研究所として設立

人工知能や音声・映像技術、CD-ROMメディアの研究開発を行う。

1996年～2000年  
家庭用ゲーム機「セガサターン™」、  
「Dreamcast®」向けにミドルウェアを提供

## CRI・ミドルウェア時代

### 2001年 CRI・ミドルウェアを設立

CSK、セガグループから独立。家庭用ゲーム機「PlayStation®2」「NINTENDO GAME CUBE®」「Xbox®」向けミドルウェアを提供開始

2014年  
東京証券取引所マ  
ザーズ(現グロース)  
市場に上場

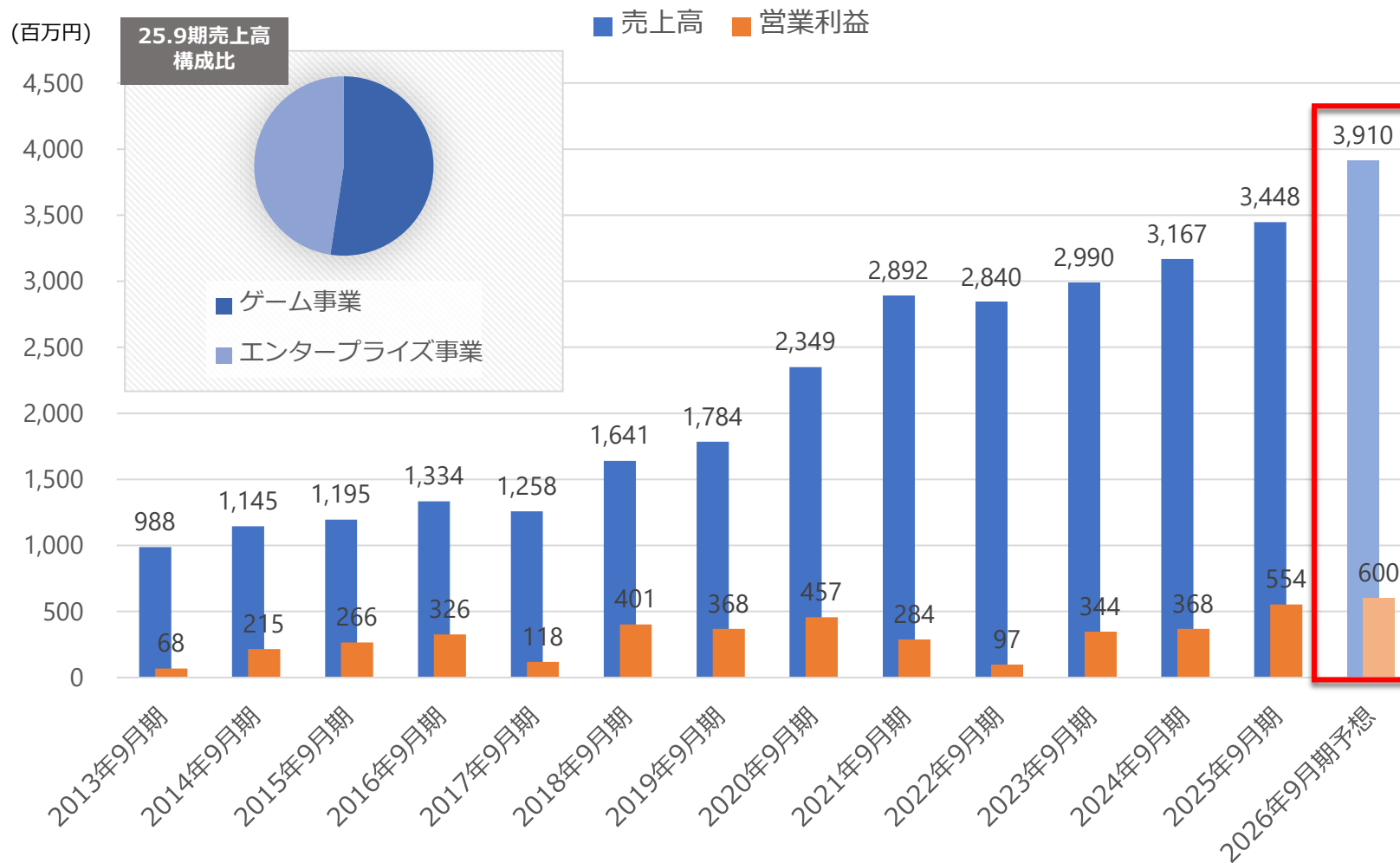
現在に至る

2026年  
東京証券取引所スタ  
ンダード市場に市場  
区分変更



## 2. 業績動向

# 業績推移



# 上期決算概要（連結）

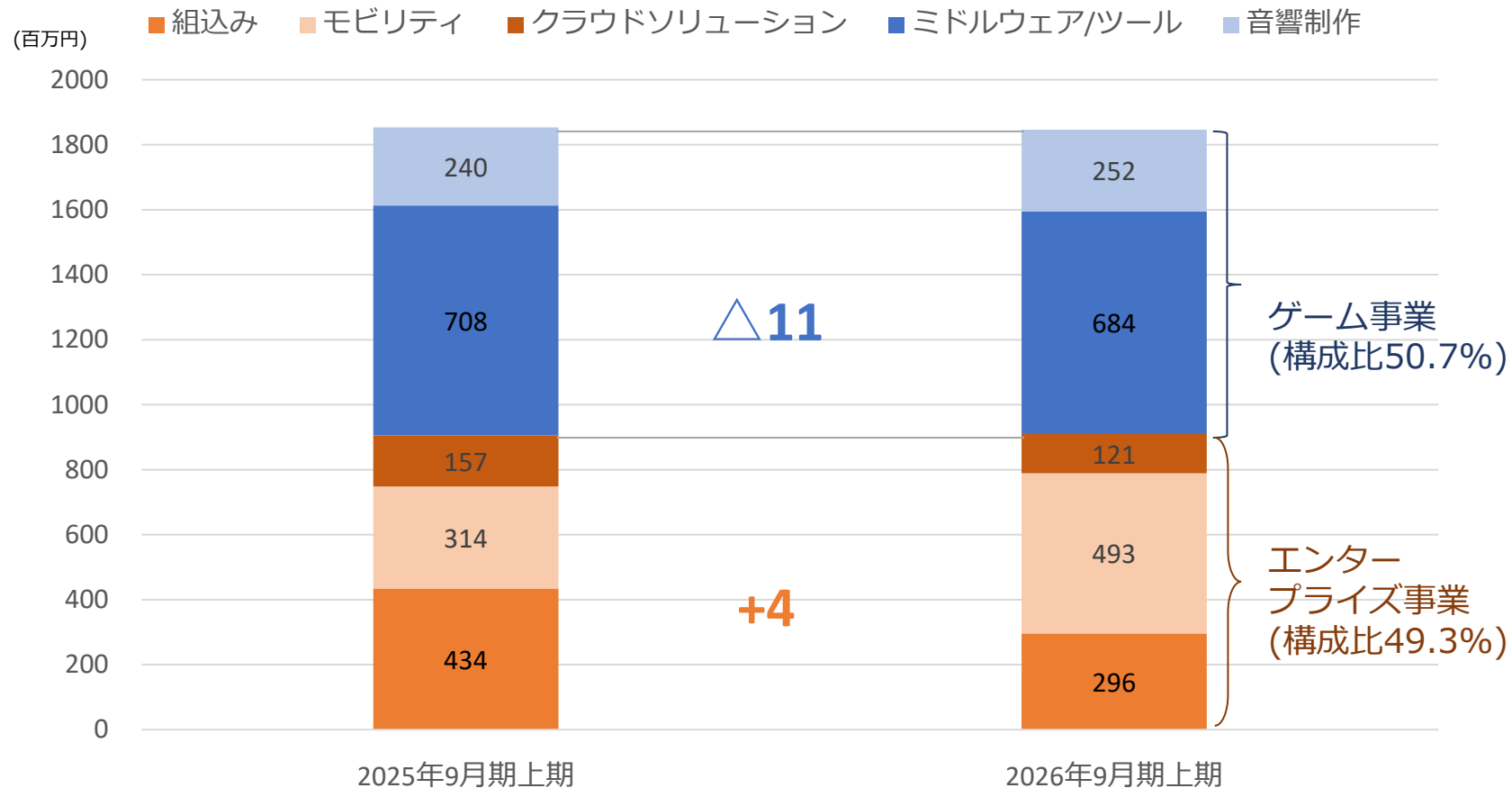
**上期業績は概ね予定どおりの進捗。** なお、売上高および営業利益が前年同期比で減少している主因は、前年はカラオケの新機種発売に伴う特需があったため。

(単位：百万円)

	当期実績 26年9月期上期	前年同期実績 25年9月期上期	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率	通期予想 26年9月期	通期予想 進捗率
売上高	1,849	1,855	△ 6	△ 0.4%	3,910	47.3%
売上原価	667	717	△ 50	△ 7.0%		
売上総利益	1,181	1,137	+ 43	+ 3.8%		
(売上総利益率)	63.9%	61.3%	+ 2.6pt	—		
販売費及び一般管理費	880	750	+ 129	+ 17.3%		
営業利益	301	387	△ 86	△ 22.3%	600	50.2%
(営業利益率)	16.3%	20.9%	△ 4.6pt	—	15.3%	—
経常利益	321	390	△ 69	△ 17.8%	616	52.2%
親会社株主に帰属する 中間純利益	222	271	△ 49	△ 18.1%	462	48.1%
従業員数（人）	172	171				

# 上期セグメント別業績（分野別売上高推移）

ゲーム事業は、音響制作が伸びたものの、欧米が伸び悩み微減。  
エンタープライズ事業は、モビリティの成長が他分野の落ち込みをカバーし微増。

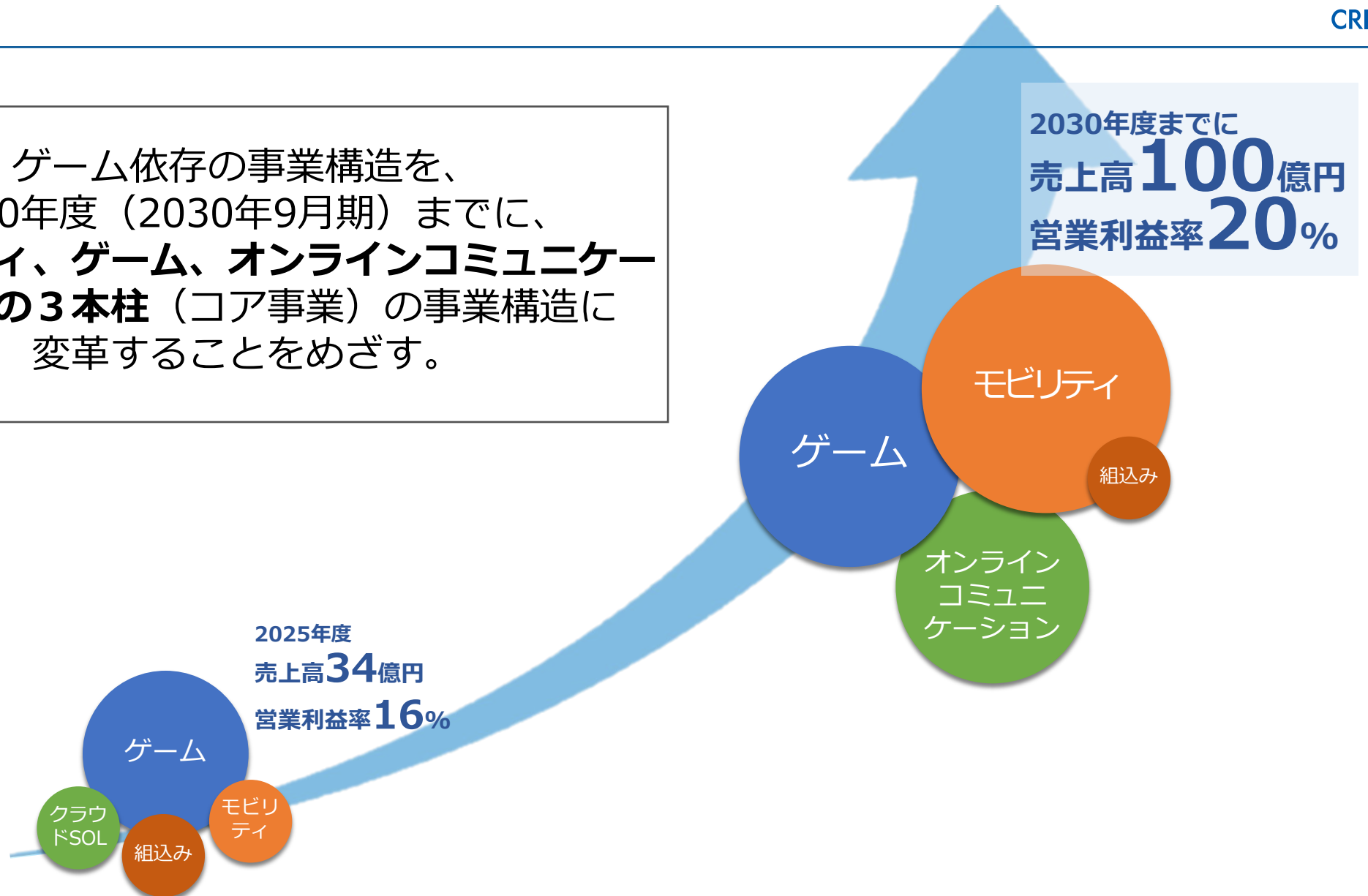




# 3. 中期経営計画(2026-2030)

# 3. 中期経営計画 ～めざす姿～

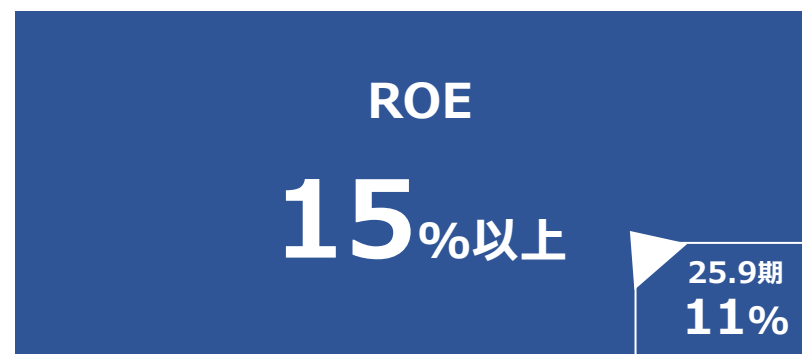
ゲーム依存の事業構造を、  
2030年度（2030年9月期）までに、  
**モビリティ、ゲーム、オンラインコミュニケーションの3本柱**（コア事業）の事業構造に  
変革することをめざす。



### 3. 中期経営計画 ～主要経営指標～



\* M&A分を除外して算出。



将来の中核事業は以下の3事業です。

(詳細はP36記載のQRコードまたはURLよりご確認ください。本日は説明を割愛します。)

## I.モビリティ(自動車/バイク向け)事業

主力2製品の採用台数拡大、1台当たりから得られる収入の増加

**⇒本日はここを掘り下げて説明します。**

## II.ゲーム事業

CRIの祖業となるミドルウェアの許諾事業。

## III.オンラインコミュニケーション事業

ネットワークを介した音声・映像コミュニケーションの新事業

CRIが着手した自動車/バイク向けの音声・映像ミドルウェアの適用先は…



## 運転席周りの 「音」と「メーターパネル」

(ウィンカー音や警告音、液晶表示のスピードメーターなど)

## 結論

### ①現代の組み込みシステム：ハードからソフトへ移行の流れ

- 1 音声IC（ハードウェア）からソフトウェアへの移行
- 2 車載メーターのアナログからデジタルへの移行

### ②今、自動車業界は100年に一度と言われる変革期

**Connected** (コネクテッド)



SDVの流れ、  
売り切り型からアップデート型へ

**Autonomous** (自動運転)



ドライバーは運転から解放  
→車内体験をいかに豊かにするか

# なぜ C R I が自動車業界へ？

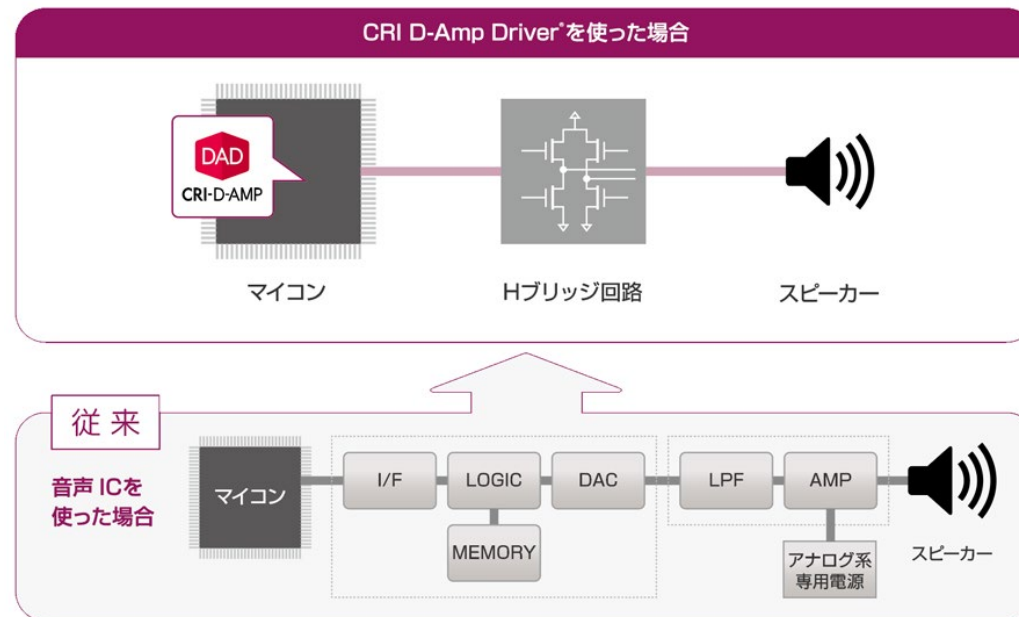
## 理由①-1

現代の組み込みシステム：ハードからソフトへ移行の流れ  
⇒ 音声IC（ハードウェア）からソフトウェアへの移行

### メリット

- ①柔軟性の向上
- ②部品点数の削減  
→小型化、調達リスク減
- ③コスト削減

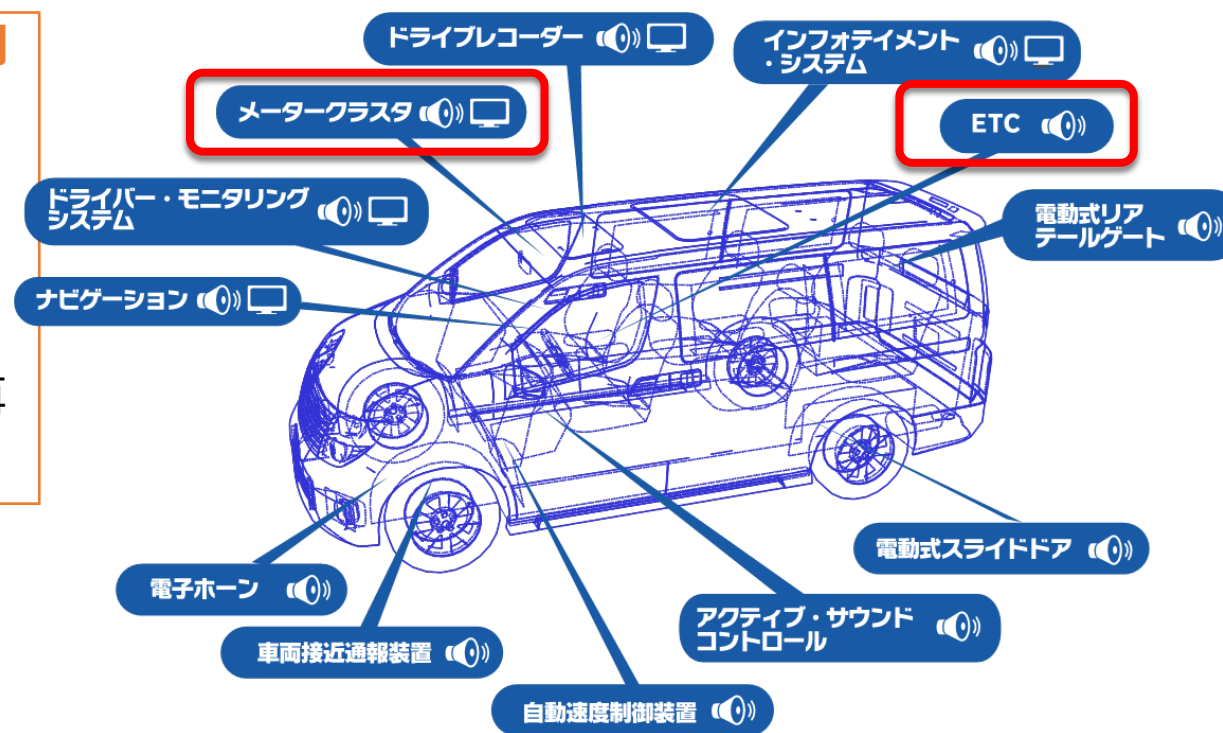
(例)



# ①-1. 音声製品 ~ADXAT~

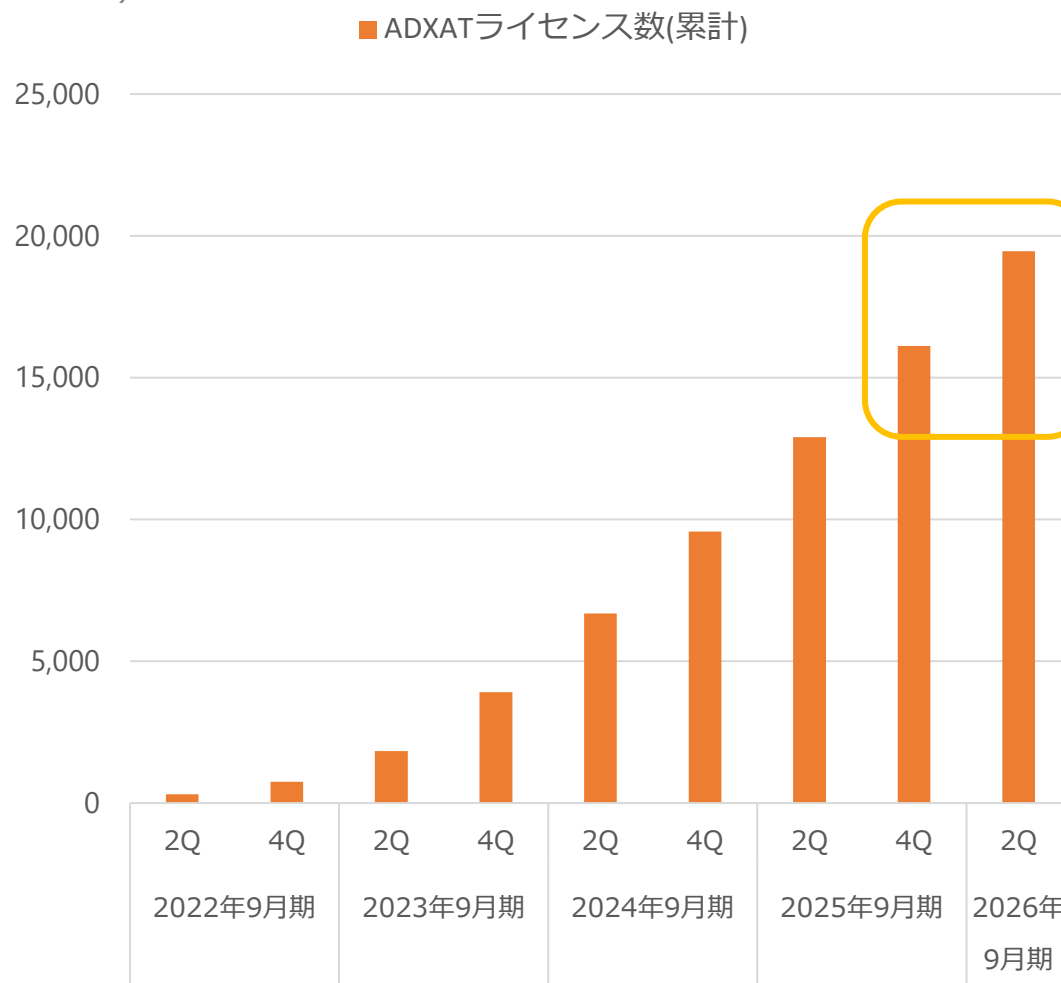
## CRI ADX Automotive(略称 : ADXAT) 車載音声ソリューション

- **情報提示音（ウインカーやリバーズ使用時の音）**やETC音声など車室内外のさまざまな音を制御。
- 現状はほぼ**メータークラスタ**での実績。
- コスト/部品点数/実装面積/電力消費を大幅に削減。音質も損なわれず大音量再生が可能。



# ①-1. 音声製品 ～ADXAT実績～

(単位:千台)



直近1年間で  
約650万台に採用

**CRIWARE採用**

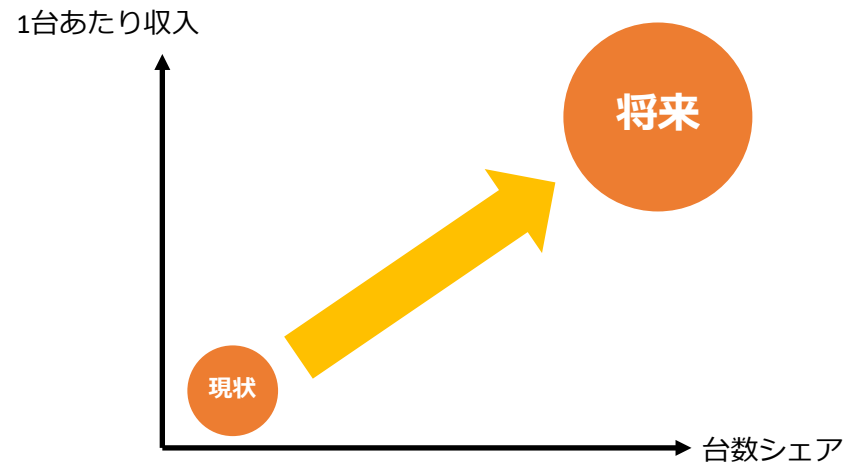
**1,945万  
ライセンス**

(2026年3月集計)

# ①-1. 音声製品 ～成長戦略～

## 音声製品の成長戦略

- ADXATは、日系メーカーだけでなく、海外メーカーとも関係を構築し、2030年までに**四輪車の世界生産台数\*の20%強（2000万台）**への採用をめざす。（年間採用台数3倍強目標）
- 現在メータークラスを中心に進めている機能展開先を、今後は車両接近通報装置やETCなど他の機能へ拡げることや、カーオーディオや統合コックピットへの採用を推進することで、**車両1台あたりから得られる収入増**を目論む。（台当たり収入1.5倍増目標）



\* 9043万台は2023年の世界の四輪車生産台数 (出典: マークラインズ)

# なぜCRIが自動車業界へ？

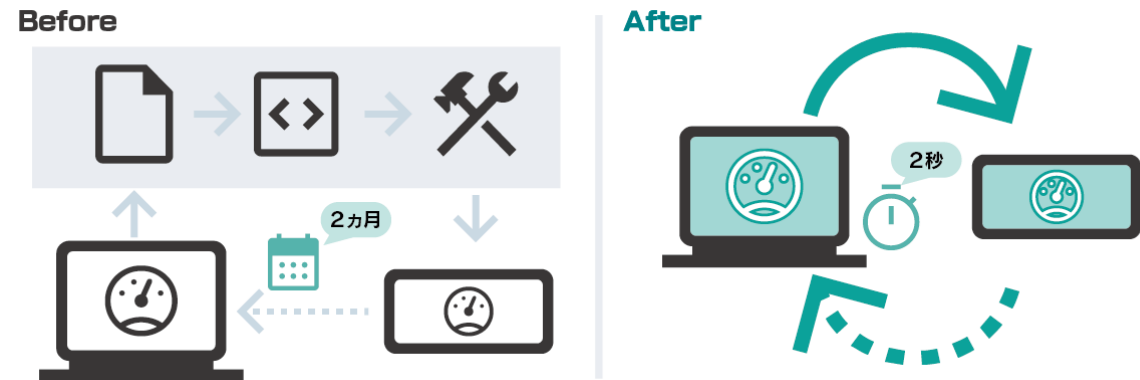
## 理由①-2

現代の組み込みシステム：ハードからソフトへ移行の流れ  
⇒ 車載メーターのアナログからデジタルへの移行

### メリット

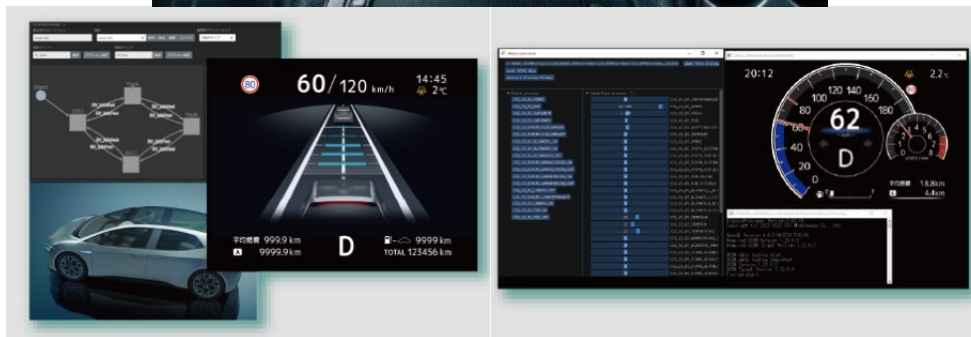
- ①情報量の多さ
- ②視認性の向上
- ③デザインの自由度

手戻りが少ないうえに、検証サイクルが劇的に短縮化



# ①-2. グラフィック製品 ~Glassco~

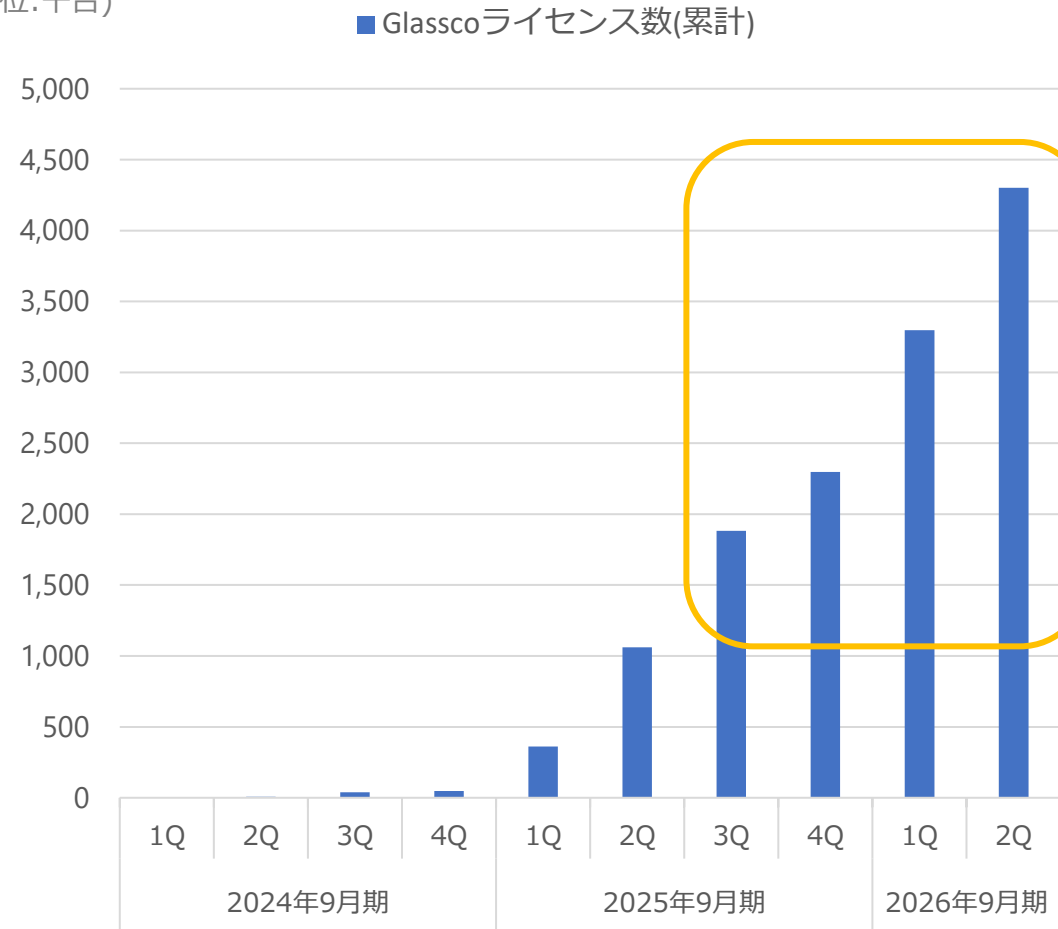
## CRI Glassco(略称 : Glassco) 車載メーターグラフィックソリューション



- **車載メーターのデザイン制作から実装まで**を簡単に行うことができる車載メーターグラフィックソリューション。
- 従来行われていた自動車メーカーと部品メーカーとのデザイン確認から修正までの工数を大幅削減。
- 対象市場は**四輪車**にとどまらず、**二輪車**市場も。1st事例は二輪車から導入開始。

# ①-2.グラフィック製品 ~Glassco実績~

(単位:千台)



直近1年間で  
約320万台に採用

**CRIWARE採用**

**430万  
ライセンス**

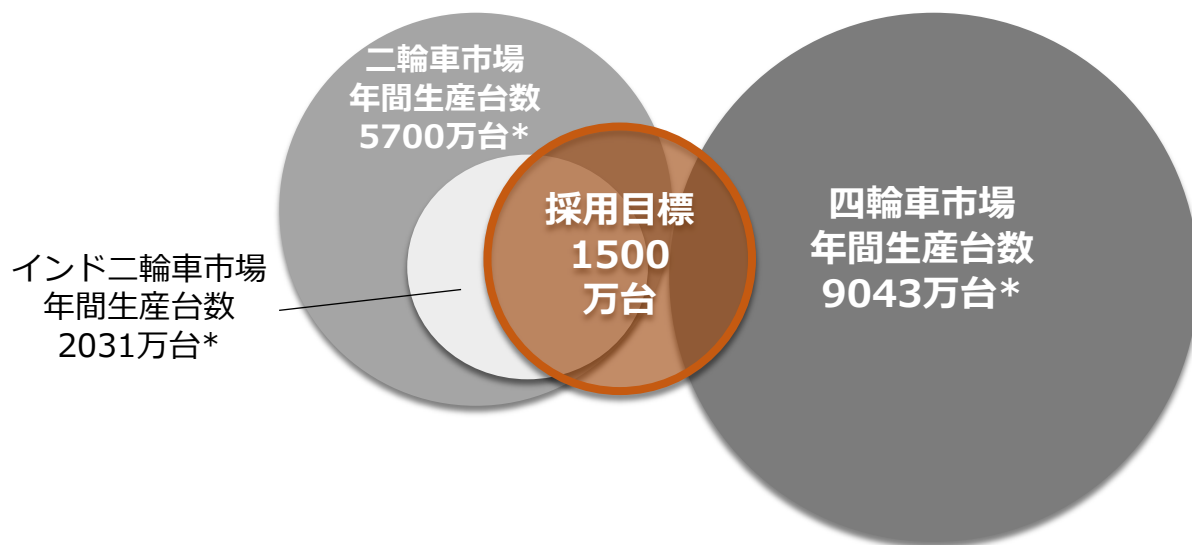
(2026年3月集計)

# ①-2. グラフィック製品 ～成長戦略～

## グラフィック製品の成長戦略

Glasscoは、ADXATで構築してきたTier1との関係を糸口に、メーターグラフィック分野へ進出。

低スペックなマイコンでも高品質なグラフィック提供ができる強みを活かし、まずは**二輪車市場**を中心に展開。2030年までに、**二輪車・四輪車の世界生産台数\*の10%（1500万台）**への採用をめざす。特に、世界最大の二輪車市場である**インド二輪車市場で1000万台**（市場シェア約50%）の採用を目論む。



\* 9043万台は2023年の世界の四輪車生産台数、5700万台は2023年の世界主要国の二輪車生産台数、2031万台は2023年のインドの二輪車生産台数 (出典: マークラインズ)

# ①-2.グラフィック製品 ~注力市場への取り組み~

## 萩原エレクトロニクスと協業し インドの二輪市場へ展開を開始 (2025/4/24発表)

「CRI Glassco」、萩原エレクトロニクスと協業し、世界最大の二輪市場へ展開を開始。

✓ 萩原エレクトロニクスのインド海外子会社と連携し、現地でのサポート体制を構築。

✓ ノーコード開発による開発コスト削減で、インド向け市場への普及拡大。



NEWS RELEASE

CRIWARE  
2025年4月24日  
株式会社CRI・ミドルウェア  
(コード番号: 3698、東証グロース)

**CRI、萩原エレクトロニクスとの協業により  
インドの二輪市場向け展開を開始**  
~ノーコード開発のデジタルメーターが世界最大の成長市場を牽引~

株式会社CRI・ミドルウェア（本社：東京都渋谷区、代表取締役社長：押見 正雄、以下「CRI」）は、萩原エレクトロニクス株式会社（本社：名古屋市東区、代表取締役社長執行役員：副島 剛、以下「萩原エレクトロニクス」）との協業により、車両向けデジタルメーター映像ソリューション「CRI Glassco®」をインド市場に向け展開開始いたします。ノーコードで簡単にデジタルメーターの開発が可能なCRI Glasscoが、世界最大のバイク市場であるインドのメーターを彩ります。

  
ノーコード開発で  
高額な開発環境が不要に

## electronica India 2025に出展 (2025/9/17~9/19)

**日時** 2025年9月17日(水)~2025年9月19日(金)  
**場所** インド・ベンガルール  
Bangalore International Exhibition Centre (BIEC)

✓ 世界のトップメーカーの最新技術と製品が勢揃いする業界屈指のリーディングメッセ「electronica」のインド版。注目度の高い南西アジア最大級の業界専門展示会。

✓ 電子部品・製造機器・光技術からパワーエレクトロニクス、セミコンダクター、電子基盤・回路関連分野まで、エレクトロニクスの全てを網羅するポータルを提供。



# なぜC R Iが自動車業界へ？

## 理由②

今、自動車業界は100年に一度と言われる変革期

**C**onnected (コネクテッド)



SDVの流れ、  
売り切り型からアップデート型へ

**A**utonomous (自動運転)



ドライバーは運転から解放  
→車内体験をいかに豊かにするか

**S**hared & Services (シェアリング)

**E**lectric (電動化)

C R Iはこの2軸で自動車業界から期待。  
ゲーム業界で培った経験や斬新な発想を  
提案。

## ②昨今の自動車業界における潮流 ～SDVについて～

### SDVとは

## Software Defined Vehicle

ソフトウェアで定義される車

イーロンマスク氏の**テスラ**から始まった**新潮流**



自動車のスマホ化

# ②昨今の自動車業界における潮流 ~SDVについて~

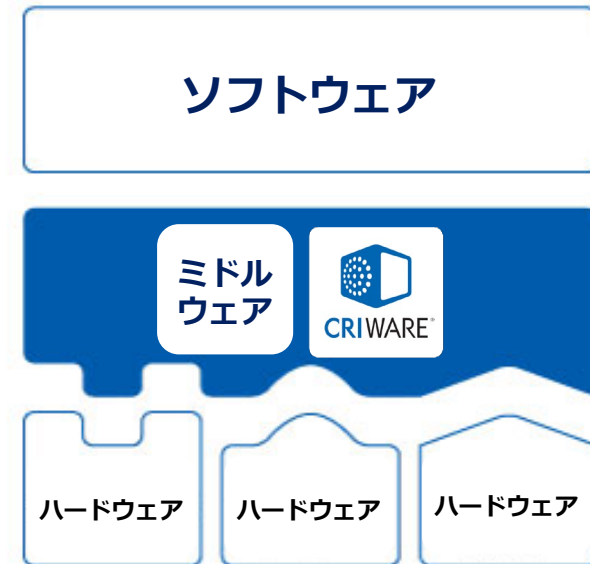
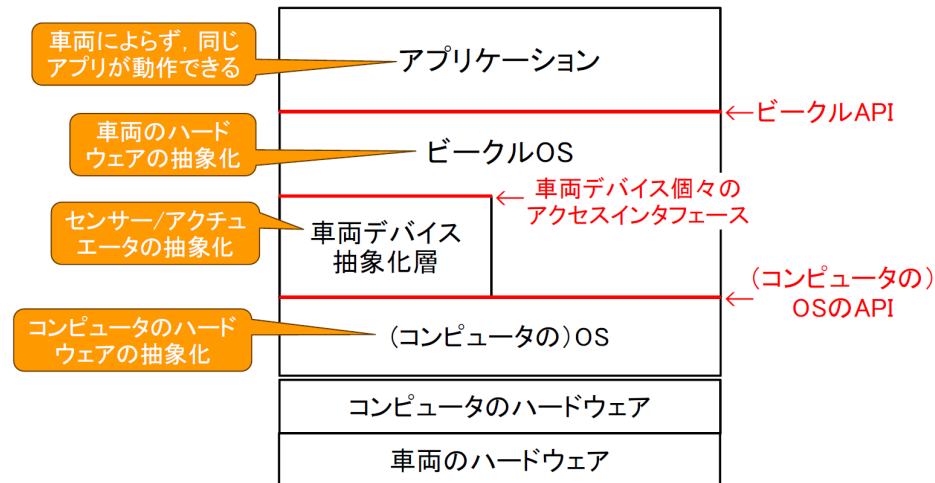
## SDVの考え方とミドルウェアの好相性

### ハードを抽象化するAPI ≒ CRIのミドルウェア

Open SDV Initiative

#### ビークルOS, ビークルAPIの位置付け

- ▶ ビークルOSは、いわゆるOS(コンピュータのOS)とは異なるもの



- 30以上のプラットフォームをサポート

## ② C R I のSDVへの取り組み ～Open SDV Initiative～



### ■ モビリティ新規展開（2024/8/7発表）

SDVのAPI策定をめざす「**Open SDV Initiative**」に参画。

- ✓ 「Open SDV Initiative」は、自動車のソフトウェアとハードウェアをつなぐ「ビークルAPI」の国内標準化を目指して設立されたプロジェクト。
- ✓ 名古屋大学大学院情報学研究科教授で、経産省・国交省モビリティDX検討会の座長も務める高田広章氏と意見交換を実施。当社技術と知見でSDV領域に貢献できると考え、参画を決定。

Press Release



名古屋大学  
NAGOYA UNIVERSITY

2024年6月20日

報道機関 各位

#### 自動車の未来を支えるAPI策定プロジェクト －「Open SDV Initiative」設立－

名古屋大学は、この度、ソフトウェア・デファインド・ビークル（SDV）に関心のある企業に参加を呼びかけ、「Open SDV Initiative」<sup>※1)</sup>を設立し、SDVに重要となるビークルAPIの策定活動を開始します。

ソフトウェアの追加・更新により販売後にも機能を拡張・変更できるSDVが注目を集めていますが、日系自動車メーカーのこの分野での立ち遅れも指摘されています。経済産業省と国土交通省が本年5月に公表した「モビリティDX戦略<sup>※2)</sup>」では、SDV化が加速する中で、SDVにおいても、日系メーカーによる世界シェア3割達成を目標として掲げています。また、この目標を達成する戦略の1つとして、SDVに搭載するアプリケーションが用いるビークルAPIの標準化の重要性が指摘されています。

Open SDV Initiative

名古屋大学 オンライン記者会見

#### 自動車の未来を支えるAPI策定プロジェクト －「Open SDV Initiative」設立－

2024年6月20日

高田 広章

名古屋大学 大学院情報学研究科 教授  
附属組込みシステム研究センター長

名古屋大学 未来社会創造機構 モビリティ社会研究所 所長・教授  
Email: hiro@ertl.jp URL: <http://www.ertl.jp/~hiro/>

Hiroaki Takada

1

## ② C R I のSDVへの取り組み ～MESH（メッシュ）～

### ■ モビリティ新規展開（2025/9/25発表）

名大発のプロジェクト「Open SDV Initiative」が提唱するSDV体験のシミュレーション環境「**MESH**」の開発に参画。

- ✓ MESHは、ソフトウェアによって機能や価値が更新される自動車「SDV」が創造する、未来の移動体験を実感できるシミュレーション環境。
- ✓ MESH開発において、当社は開発者の多様なアイデアを体験できるシナリオやシナリオ全体のコントロール機能開発、解説やステップの表示機器制御、機器間連携のためのネットワーク構築などを担当。



## ② C R I のSDVへの取り組み ～多数の講演実績～

- 当社モビリティ事業部の開発部長がゲーム業界の目線からSDVについて多数講演。



ソフトウェア・ディファインド・ビークル・  
サミット 2025

EdgeTech+  
2025



“くるまからモビリティへ”の技術展 2025

KuruMobi Tech Expo - from Cars to Mobility

# モビリティ(自動車/バイク向け)事業の成長戦略

## ■ 音声製品

- 「CRI ADX Automotive(略称: ADXAT)」  
情報提示音やETC音声など車室内外のさまざまな音を制御する車載サウンドソリューション。
- 「CRI SOLIDAS」  
1チップ化による小型化/コストダウン/大幅な電力削減を実現するデジタル技術のみの音響システム。

## ■ グラフィック製品

- 「CRI Glassco」  
車載メーターのデザイン制作から実装までを簡単に行うことができる車載メーターグラフィックソリューション。

## ■ その他

SDV関連やM&A、受託業務による拡大を想定。

2030年度までに

売上高**40**億円

音声製品  
ADXAT/  
SOLIDAS

その他

グラフィック製品  
Glassco

2025年度

売上高**6**億円

ADX  
AT

その他

Glass  
CO



# 4. 株主還元方針

# 4. 株主還元方針

当社は、**事業拡大と企業価値の向上**が株主の皆様に対する最大の利益還元につながると考えております。

配当につきましては、成長投資と株主還元のバランスを総合的に勘案の上、**連結配当性向30%を目安**に決定いたします。

なお、剰余金の配当を行う場合、中間配当および期末配当の**年2回**を基本的な方針としております。

	2024年 9月期	2025年 9月期	2026年 9月期 (予想)
合計	20円	25円	27円
中間配当*			13円
期末配当	20円	25円	14円
配当性向	34.3%	31.1%	30.5%

\* 2026年9月期より配当方針を変更し、中間配当を実施することを決定しております。

- 中期経営計画（2025年11月発表）

[https://www.cri-mw.co.jp/ir/management/mid\\_to\\_long\\_term/](https://www.cri-mw.co.jp/ir/management/mid_to_long_term/)



- よくあるご質問（2026年3月に刷新）

※今後四半期に1度最新情報に更新予定

<https://www.cri-mw.co.jp/ir/faq/>



# 本資料の取り扱いについて

- 本資料に掲載している情報は、株式会社CRI・ミドルウェア（以下、当社）グループの経営指標等の提供を目的としており、投資勧誘を目的に作成されたものではありません。実際に投資を行う際は、本資料の情報に全面的に依拠して投資判断を下すことはお控えいただき、投資に関するご決定はご自身のご判断で行うようお願いいたします。
- 本資料に含まれる将来の見通しに関する記述等は、現時点における情報に基づき判断したものであり、経済動向及び市場環境や当社の関連する業界動向、その他内部・外部要因等により変動することがあります。従いまして、実際の業績が本資料に記載されている将来の見通しに関する記述等と異なるリスクや不確実性等がありますことを、予めご了承ください。